

II 住民基本台帳人口(日本人住民)による社会動態

1 概要

平成28年の社会動態は、市外からの転入が4万3,089人、市外への転出が4万2,545人で、544人の転入超過となりました。

これを地域別にみていくと、仙台都市圏内の他市町村、東京圏及びその他の地方に対して転出超過となっています。また、仙台都市圏以外の市町、東北5県に対しては転入超過となっています。

この結果、区間移動と職権記載等の「その他増加数」を加えた社会増加数は883人となっています。

(表2、図6、統計表第2表、統計表第3表)

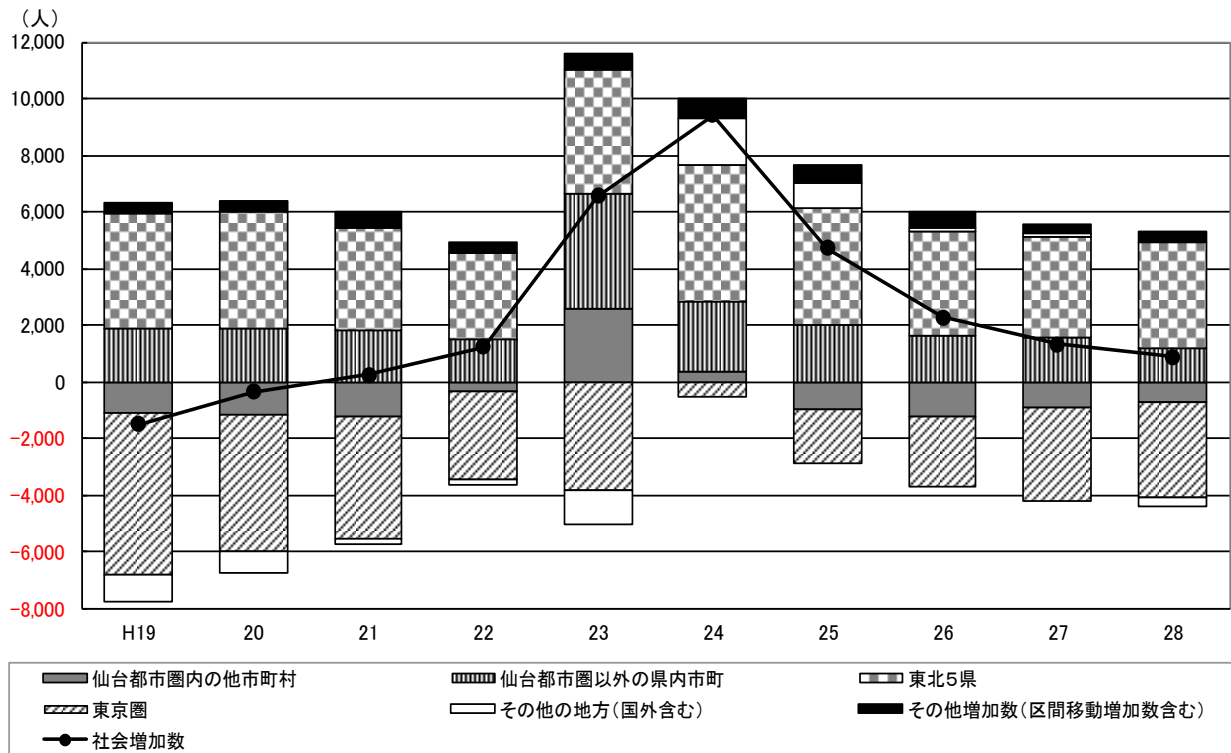
表2 市外との移動：転入数、転出数、社会増加数の推移—全市（平成19年～平成28年）

地 域	平成 19 年	20	21	22	23	24	25	26	27	28
転 入 数	47,874	47,128	45,295	43,976	49,914	49,547	47,035	44,802	44,837	43,089
宮城県	12,247	11,978	11,336	11,362	16,179	11,986	11,708	11,087	11,309	10,554
仙台都市圏内の他市町村	6,019	5,911	5,613	5,842	8,272	5,965	5,778	5,456	5,756	5,397
" 以外の市町	6,228	6,067	5,723	5,520	7,907	6,021	5,930	5,631	5,553	5,157
東北5県	15,460	14,821	14,051	13,048	14,237	13,963	13,525	13,044	13,231	12,826
東京圏	10,504	10,848	10,505	10,659	9,936	12,361	11,210	10,797	10,551	10,486
その他の地方(国外含む)	9,663	9,481	9,403	8,907	9,562	11,237	10,592	9,874	9,746	9,223
転 出 数	49,712	47,917	45,636	43,085	43,983	40,782	42,938	43,044	43,846	42,545
宮城県	11,522	11,287	10,783	10,201	9,519	9,176	10,693	10,682	10,689	10,119
仙台都市圏内の他市町村	7,158	7,116	6,857	6,186	5,672	5,592	6,752	6,672	6,668	6,120
" 以外の市町	4,364	4,171	3,926	4,015	3,847	3,584	3,941	4,010	4,021	3,999
東北5県	11,369	10,736	10,420	10,003	9,902	9,091	9,380	9,395	9,627	9,053
東京圏	16,195	15,627	14,798	13,780	13,796	12,925	13,147	13,279	13,890	13,868
その他の地方(国外含む)	10,626	10,267	9,635	9,101	10,766	9,590	9,718	9,688	9,640	9,505
社会増加数	△ 1,838	△ 789	△ 341	891	5,931	8,765	4,097	1,758	991	544
宮城県	725	691	553	1,161	6,660	2,810	1,015	405	620	435
仙台都市圏内の他市町村	△ 1,139	△ 1,205	△ 1,244	△ 344	2,600	373	△ 974	△ 1,216	△ 912	△ 723
" 以外の市町	1,864	1,896	1,797	1,505	4,060	2,437	1,989	1,621	1,532	1,158
東北5県	4,091	4,085	3,631	3,045	4,335	4,872	4,145	3,649	3,604	3,773
東京圏	△ 5,691	△ 4,779	△ 4,293	△ 3,121	△ 3,860	△ 564	△ 1,937	△ 2,482	△ 3,339	△ 3,382
その他の地方(国外含む)	△ 963	△ 786	△ 232	△ 194	△ 1,204	1,647	874	186	106	△ 282
※参考										
その他増加数	338	423	582	341	609	654	631	516	334	339
" を含む社会増加数	△ 1,500	△ 366	241	1,232	6,540	9,419	4,728	2,274	1,325	883

(△は転出超過数)

※「その他増加数」には職権記載・消除、国籍取得・喪失等のほか、市内区間移動増減数が含まれています。

図6 転出入超過数の地域別内訳 (平成19年～28年)

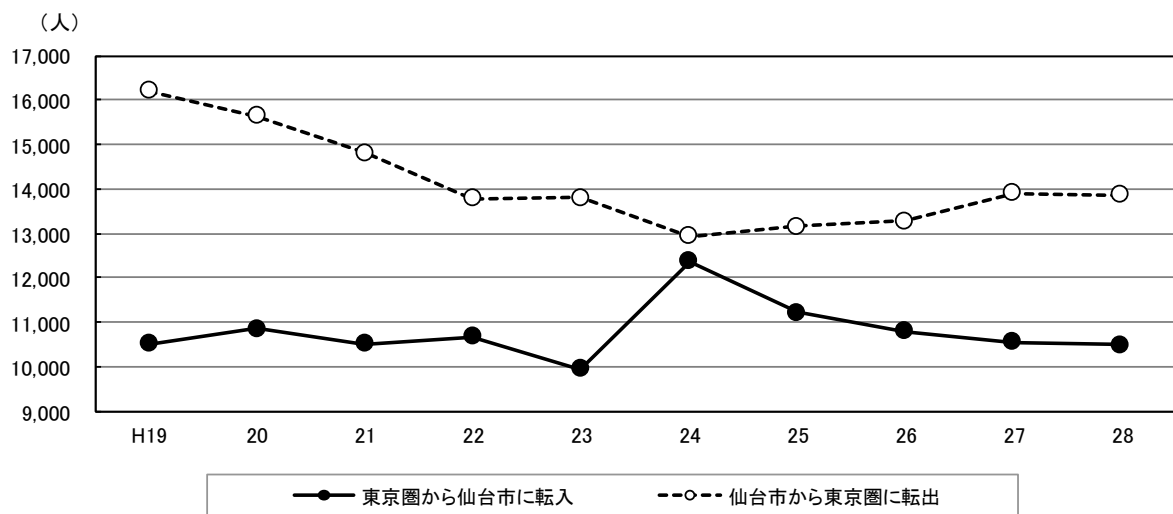


2 東京圏に対する人口移動

東京圏に対する人口移動は、転入数が1万486人、転出数が1万3,868人で、3,382人の転出超過となりました。

(表2、図6、図7、統計表第2表)

図7 東京圏との転出入数 (平成19年～28年)

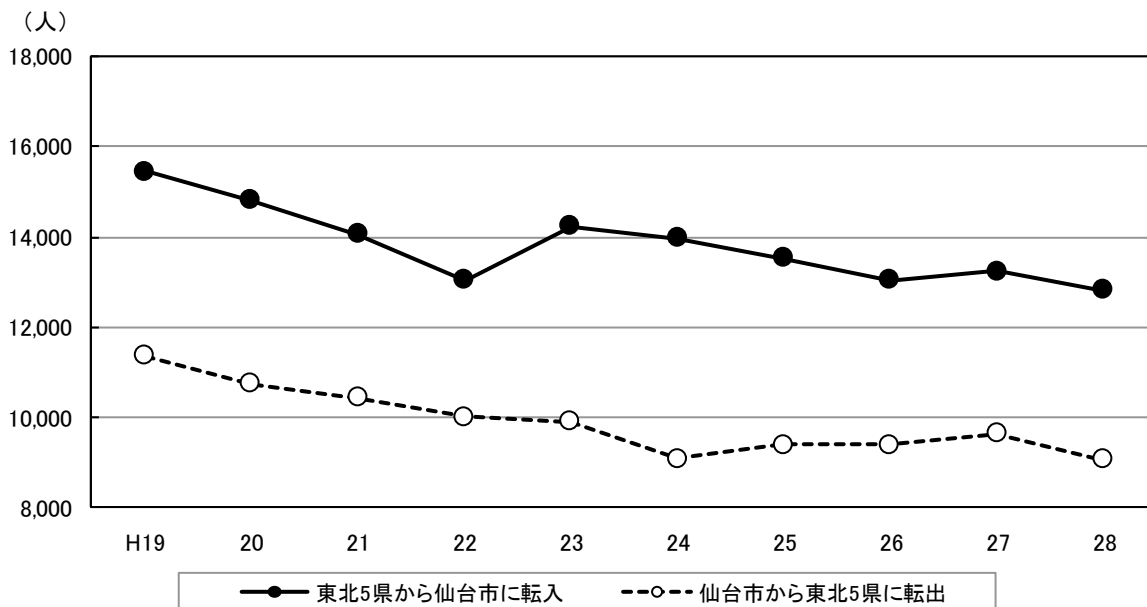


3 東北5県及びその他の地方（国外含む）に対する人口移動

東北5県に対する人口移動は、転入数が1万2,826人、転出数が9,053人で、3,773人の転入超過となりました。

(表2、図6、図8、統計表第2表)

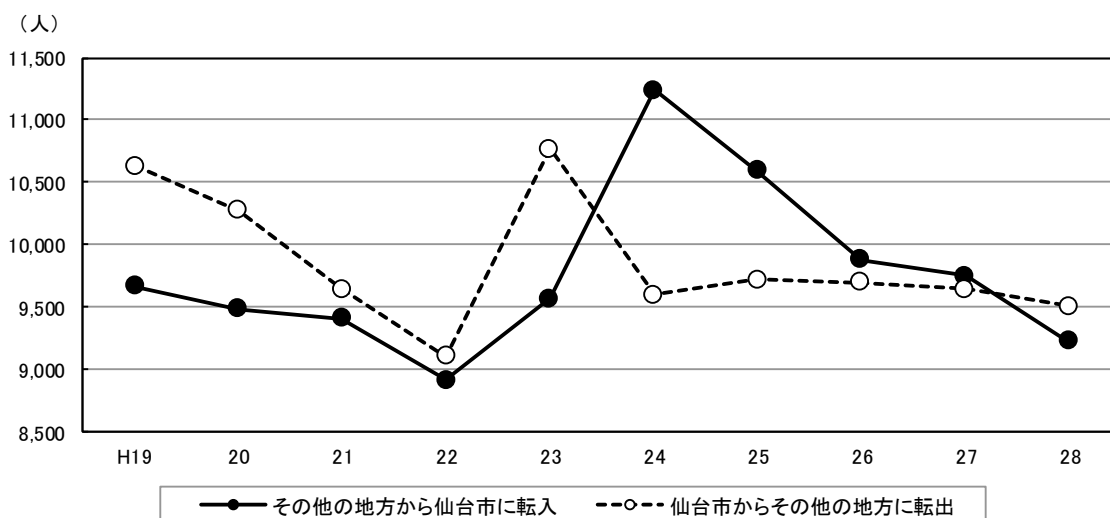
図8 東北5県との転出入数（平成19年～28年）



その他の地方（国外含む）に対する人口移動は、転入数が9,223人、転出数が9,505人で、282人の転出超過となりました。

(表2、図6、図9、統計表第2表)

図9 その他の地方との転出入数（平成19年～28年）

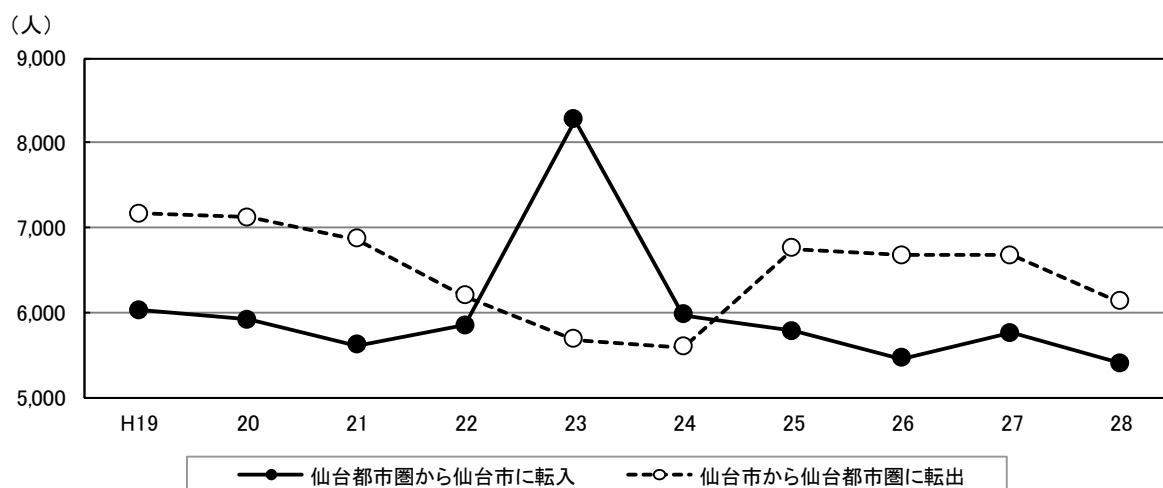


4 県内他市町村に対する人口移動

仙台都市圏内の他市町村に対する人口移動は、転入数が 5,397 人、転出数が 6,120 人で、723 人の転出超過となりました。市町村別の内訳をみると、転入超過となっているのは 5 市町村、転出超過となっているのは 8 市町となっています。

(表 2、図 6、図 10、統計表第 3 表)

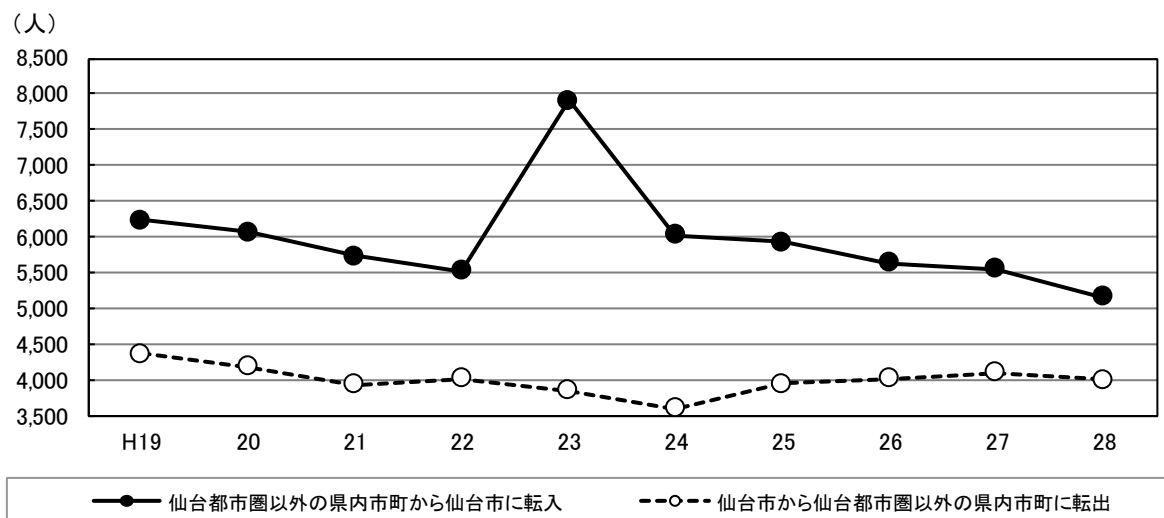
図 10 仙台都市圏との転出入数 (平成 19 年～28 年)



仙台都市圏以外の県内市町村に対する人口移動は、転入数が 5,157 人、転出数が 3,999 人で、1,158 人の転入超過となりました。

(表 2、図 6、図 11、統計表第 3 表)

図 11 仙台都市圏以外の県内市町村との転出入数 (平成 19 年～28 年)



5 区別の社会動態

平成 28 年の区別社会動態は、泉区を除く 4 区で社会増となりました。その内訳について、次のような点が特徴として挙げられます。

- ① 市内他区に対しては、青葉区、宮城野区、泉区で転出超過。他 2 区は転入超過。
- ② 県内市町村に対しては、宮城野区、太白区、泉区で転出超過。他 2 区は転入超過。
- ③ 東北 5 県に対しては、全区で転入超過。
- ④ 東京圏に対しては、全区で転出超過。
- ⑤ その他の地方に対しては、青葉区、太白区、泉区で転出超過。他 2 区は転入超過。

(表 3、図 1 2、統計表第 4 表)

図 1 2 地域別社会増加数（転入数－転出数）－区（平成 23～28 年）

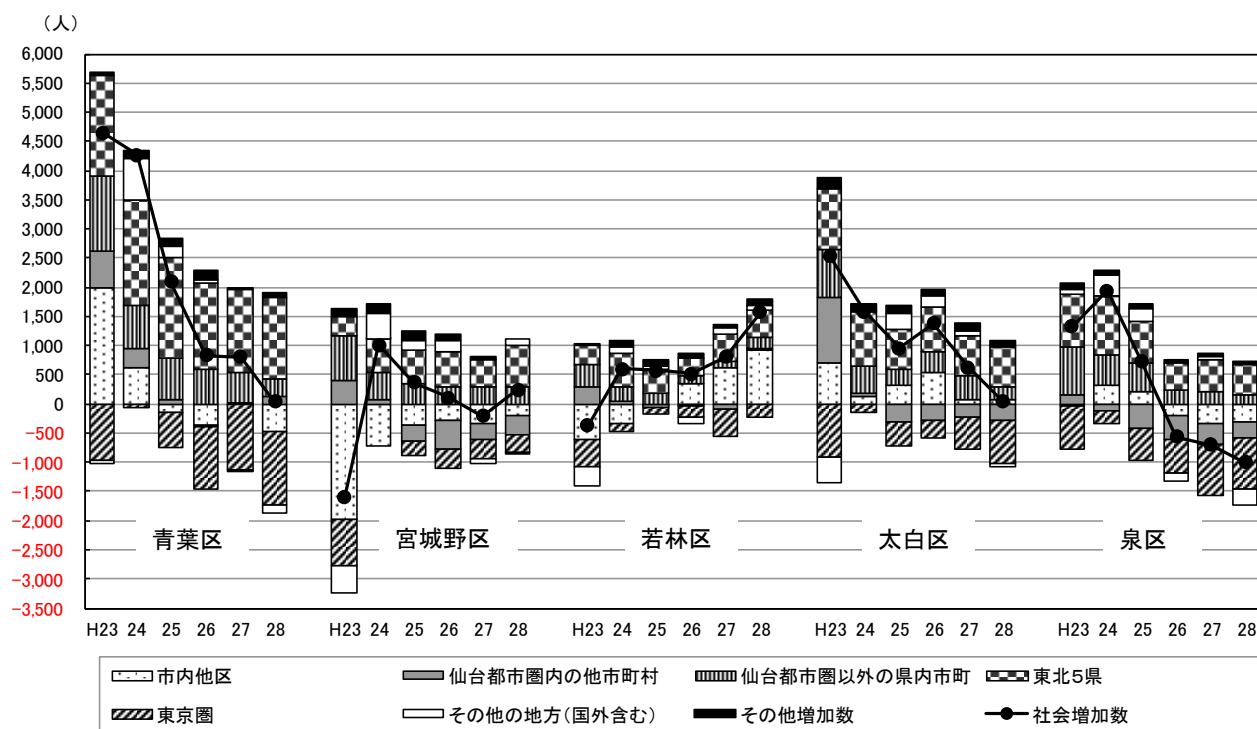


表3 社会増加数の地域別内訳一区（平成23年～28年）

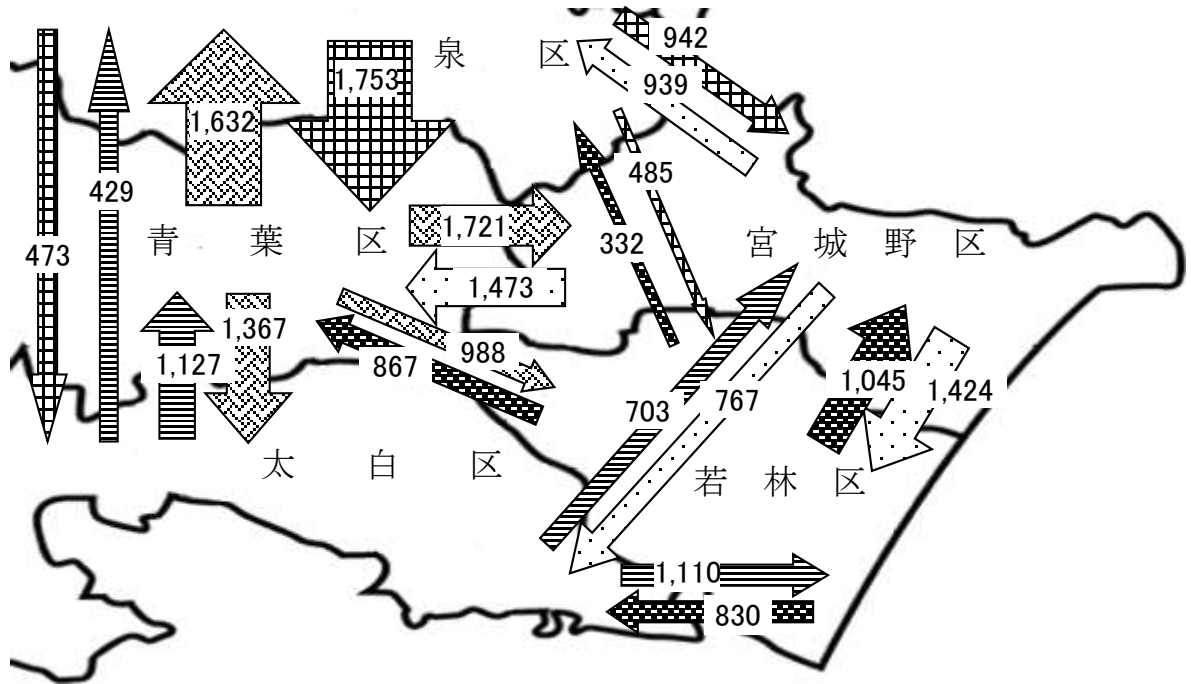
（単位：人）

区,年次	社会 増加数	市内 他区	宮城県		東北 5県	東京圏	その他の 地方 (国外含む)	その他 増加数	
			仙台都市 圏内の 他市町村	仙台都市 圏以外の 市町					
青葉区									
平成23年	4,654	1,983	1,911	639	1,272	1,724	△ 974	△ 58	68
24	r4,271	628	1,059	329	730	1,797	△ 75	715	r147
25	r2,086	△ 133	776	84	692	1,742	△ 611	173	r139
26	r831	△ 374	589	△ 11	600	1,467	△ 1,077	70	r156
27	r803	△ 9	537	30	507	1,415	△ 1,125	△ 17	r2
28	39	△ 488	439	124	315	1,383	△ 1,247	△ 129	81
宮城野区									
平成23年	△ 1,594	△ 1,981	1,168	402	766	333	△ 789	△ 465	140
24	r1,009	△ 720	534	78	456	569	13	427	r186
25	r364	△ 368	70	△ 271	341	587	△ 249	157	r167
26	r106	△ 280	△ 193	△ 484	291	615	△ 337	168	r133
27	r△ 205	△ 344	32	△ 254	286	483	△ 350	△ 82	r56
28	238	△ 191	△ 34	△ 327	293	722	△ 320	88	△ 27
若林区									
平成23年	△ 376	△ 624	683	286	397	313	△ 465	△ 329	46
24	r602	△ 337	292	32	260	562	△ 143	120	r108
25	r576	△ 4	132	△ 57	189	406	△ 112	53	r101
26	r522	333	95	△ 45	140	315	△ 183	△ 106	r68
27	r806	621	28	△ 90	118	462	△ 466	94	r67
28	1,569	933	206	19	187	454	△ 218	101	93
太白区									
平成23年	2,537	700	1,934	1,127	807	1,055	△ 913	△ 436	197
24	r1,424	r△ 32	507	54	453	933	△ 135	35	r116
25	r959	306	△ 28	△ 308	280	683	△ 417	279	r136
26	r1,383	534	75	△ 287	362	778	△ 291	190	r97
27	r627	77	172	△ 242	414	688	△ 530	65	r155
28	33	68	△ 70	△ 287	217	695	△ 722	△ 56	118
泉区									
平成23年	1,319	△ 44	964	146	818	910	△ 719	84	124
24	r2,113	r472	418	△ 120	538	1,011	△ 224	350	r86
25	r743	212	65	△ 422	487	727	△ 548	212	r75
26	r△ 568	△ 209	△ 161	△ 389	228	474	△ 594	△ 136	r58
27	r△ 706	△ 337	△ 149	△ 356	207	556	△ 868	46	r46
28	△ 996	△ 320	△ 106	△ 252	146	519	△ 875	△ 286	72

※「その他増加数」には職権記載・消除、国籍取得・喪失等が含まれています。

※「r」は訂正数字。

図13 区間人口移動（平成28年 転入ベース）



転入ベースで区間相互における人口移動をみると、最も人口移動が多いのは、青葉・泉区間で3,385人（=1,632人+1,753人）となっています。逆に最も人口移動が少ないのは、若林・泉区間で817人（=332人+485人）となっています。（図13）

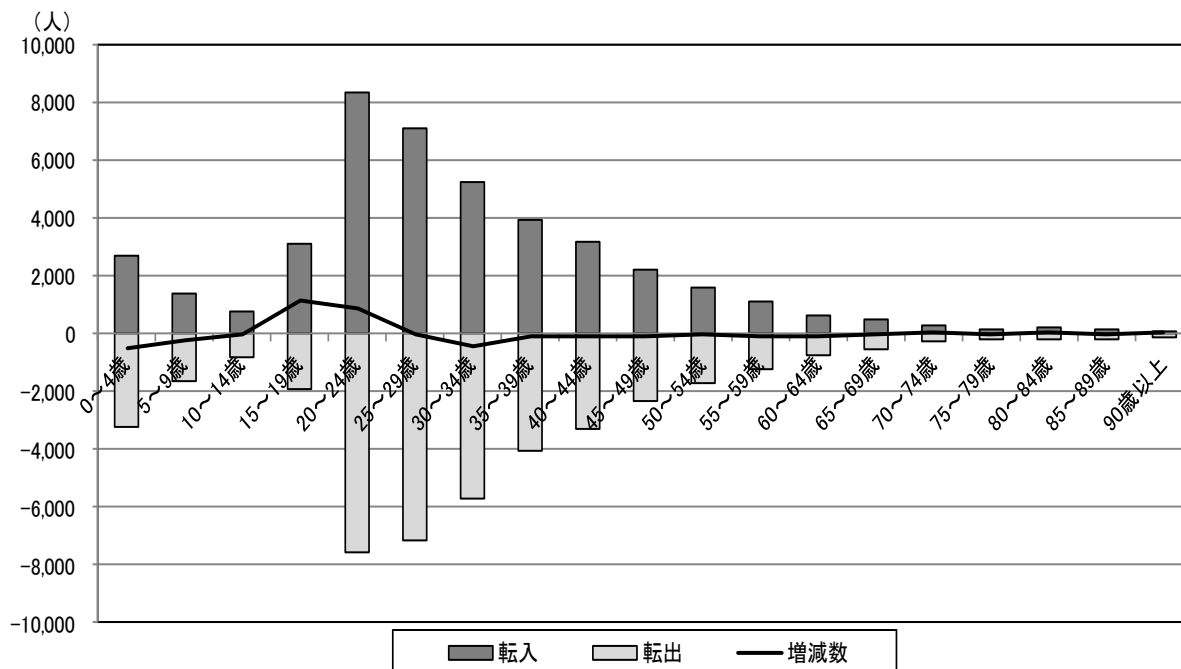
転入・転出の差し引きによる、区別の対市内各区社会増減をみると、青葉区は泉区を除く3区に対して転出超過で、全体では488人の転出超過となっています。宮城野区は若林区、太白区に対して転出超過で、全体で191人の転出超過となっています。若林区は全ての区に対して転入超過で、全体では933人の転入超過となっています。太白区は若林区を除く3区に対して転入超過で、全体では68人の転入超過となっています。泉区は全ての区に対して転出超過で、全体では320人の転出超過となっています。また、相互間の移動数に最も差があるのは宮城野・若林区間の移動で、若林区は379人（=1,424人-1,045人）の転入超過となっています。

（表3、統計表第4表）

6 年齢（5歳階級）別の人口移動

年齢（5歳階級）別の人口移動をみると、転入数・転出数とも最も多い年齢は20～24歳で、転入数8,390人、転出数7,533人でした。（図14、統計表第5表）

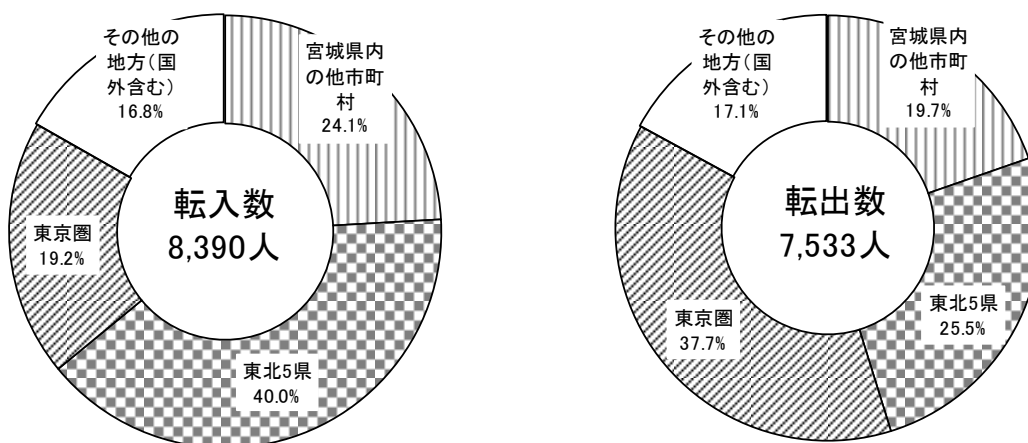
図14 年齢（5歳階級）別転出入数（平成28年）



20～24歳における転出入数を地域別にみると、転入割合が最も大きいのは東北5県からの転入（40.0%）で、次いで、宮城県内の他市町村からの転入（24.1%）、東京圏からの転入（19.2%）、その他の地方からの転入（16.8%）となっています。また、転出割合が最も大きいのは東京圏への転出（37.7%）で、次いで、東北5県への転出（25.5%）、宮城県内の他市町村への転出（19.7%）、その他の地方への転出（17.1%）となっています。

（図15、統計表第5表）

図15 転出入数の地域別割合—20～24歳（平成28年）



（注）「その他の地方」は国外含む

次に、年齢（5歳階級）別の人口移動における社会増減数をみると、転入超過数が最も多かったのは15～19歳の1,187人（=3,116人-1,929人）で、転出超過数が最も多かったのは0～4歳の△479人（=2,718人-3,197人）でした。15～19歳における転入数を地域別割合でみると、最も大きいのは東北5県からの転入（49.7%）で、次いで、宮城県内の他市町村からの転入（23.0%）、その他の地方からの転入（17.0%）、東京圏からの転入（10.2%）となっています。

また、0～4歳における転出数を地域別割合でみると、最も大きいのは宮城県内の他市町村への転出（30.2%）で、次いで、東京圏への転出（26.6%）、その他の地方への転出（23.4%）、東北5県への転出（19.7%）となっています。（図16、統計表第5表）

図16-1 転出入数の地域別割合
-15～19歳（平成28年）

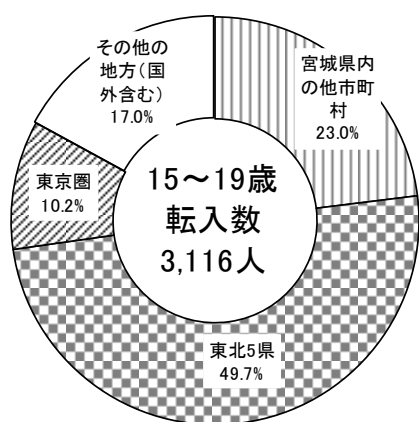
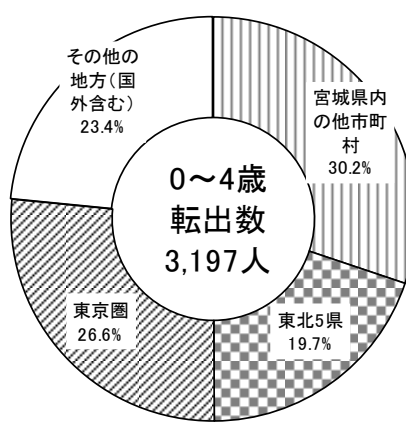


図16-2 転出入数の地域別割合
-0～4歳（平成28年）



平成26年以降の年齢（5歳階級）別の人口移動の推移をみると、転入超過数については、3年連続で15～19歳が最も多く、転出超過数については、平成27年は30～34歳が最も多いが、平成26・28年は0～4歳が最も多くなりました。（図17、統計表第5表）

図17 年齢（5歳階級）別の人口移動の推移（平成26～28年）

